

古い日本の心への旅

保科早紀

私は藤沢市にある大学の1年生で、今年の4月に名古屋から引っ越してきました。昨年の10月、大学の合格通知を受け取った瞬間に、興奮していた母の第一声は「おめでとう！これでお母さんも好きなときに鎌倉へ遊びに行けるわ！」でした。そして母が真っ先にとった行動は、普通の母親なら何よりも優先する大学の入学手続きではなく、一番近くの本屋に駆け込み、鎌倉のガイドブックを手に入れたことでした。

今日は外国人旅行者にとっての鎌倉について話したいと思います。私にはフランス人の友達が多く、彼らが日本にくるときには必ず鎌倉の豊かさを紹介するようにしています。それには2つの理由があります。

まず一つめは、日本の古都の価値ある文化を紹介したいからです。一般的に、高層ビルが立ち並ぶ近代都市東京は、特に若い世代には人気があります。しかし、それは日本のほんの一部分であり、日本の町の歴史や伝統的な面を象徴しているものではありません。そしてまさしく私はそのもう1つの日本の別の部分を外国人旅行者には知ってもらいたいと思うのです。鎌倉には、1192年から約150年間幕府が置かれており、寺や神社や輝かしい過去を象徴する遺跡がたくさん残っています。また、海や山の大自然にも恵まれ、四季折々の花や木に囲まれた素晴らしい景観が楽しめます。

二つ目の理由は、鎌倉が東京に近いことです。もう一つの日本の素晴らしい古都である京都は、東京から2時間18分かかり、片道127€もします。それに比べて鎌倉は東京からたったの53分で、8,30€しかかからないのです。鎌倉なら日帰り旅行も十分可能です。経済的なことも考えてみてください。鎌倉へ行けば、京都への交通費の差額でおみやげも買えますよ！

私は日仏学生フォーラムのメンバーで、今年の8月には20人のフランス人学生を2週間招待しました。彼らに東京を案内し、もちろん一泊二日の鎌倉旅行にも連れて行きました。朝、江の電の一日フリー切符と鎌倉駅でもらったフランス語版の観光ガ

イドマップをにぎりしめ、北鎌倉駅からスタートです。まず、日本的な風情あふれる細い道を歩いて円覚寺へ行きました。門をくぐればそこはまるで別世界。セミの声がひびきわたり、美しい日本庭園にはいくつもの素晴らしい寺の建物が点在し、庭園の池には鯉や亀が泳いでいました。フランス人学生たちにとって見るもの全てがめずらしく、みな熱心にカメラをむけていました。

次に鶴岡八幡宮を訪れ、小町通りを歩き、それぞれが人力車に乗ったり和菓子屋さんで休憩したり、お土産を買ったりして過ごしました。午後は、鎌倉彫の体験です。それはフランス人にとって初めての経験で、みな夢中になり2時間はあっという間に過ぎてしまいました。帰りに彫刻刀を買って帰る人もいたぐらいです。その後、手を伸ばせば触れるほど民家のすぐ横をかすめ通る江の電に乗り、長谷駅に着きました。長谷寺の長谷観音を拝観後、高德院で大仏を拝みました。そこでは大仏の絵を描いたり、ポーズを真似したり、写真を撮ってじっくりと鑑賞しました。

最後に宿に落ち着き、夕食後、近くの海辺で花火をしました。普通フランスでは花火をしないので、花火から出る鮮やかな色合いや美しい光にみんな興奮気味でした。大浴場にみんなで入ったり、畳の上に敷かれた布団の上で寝たり、フランス人の友人達はいつのまにか、自分達が古くからある日本の伝統や文化にすっかり馴染んでいることに気付き、驚きを隠しきれない様子でした。おかげで豊かな自然に囲まれてそれと共存するような寺や神社のある鎌倉で、そこでしかできないことを経験し、皆この素晴らしい地鎌倉にとっても満足していたようです。

政府観光局のデータによると、日本に来た外国人観光客の25.17%は大阪を訪れ、そのほとんどの観光客は京都も訪れています。それに比べて東京を訪れた観光客の28%しか神奈川を訪れていません。これは非常に残念なことです。もし鎌倉がユネスコの世界遺産に登録されれば、観光客は激増するに違いありません。それは鎌倉を知らない人たちに鎌倉の素晴らしさを伝えるため、私が心から願ってやまないことなのです。